

濱口桂一郎『働く女子の運命』

文春新書、2015年
要点のまとめ

はじめに

次の二つの文に注目

- 「なぜ日本の女性はこんなにも活躍していないのでしょうか？」(p. 4.)

この本のテーマは何か、何を問題として取り上げるかを示している。つまり、問題提起。

- 「(・・・)何か、法律の条文には現れていない、女性の活躍を阻害する要因が日本社会に働いているに違いありません。」(p. 5.)

「女性の活躍を阻害する要因」とは何かを明らかにすること、それがこの本の目的であり、それが同時に、前の文で提起された問題＝「問い」に対する「答え」であることを示している。

なお、赤で書かれている部分は戸口が付け加えた注もしくはコメントである(以下同じ)。

序章 日本の女性はなぜ 「活躍」できないのか？

- 雇用システムの違いがその要因
 - 欧米(じつは日本以外の国々): ジョブ型社会、職務給、同一労働同一賃金原則
 - 日本: メンバーシップ型社会、職能給(年功賃金・生活給)
- 日本型雇用 ジョブではなくコースで処遇が分かれる
 - 総合職: 男性中心の中核社員コース
 - 一般職: 女性コース
- 過去20年の日本 規制緩和路線 – 市場主義の時代
 - 総合職: 長時間労働、メンタルヘルスの悪化
 - 一般職: 非正規化、
 - 日本型雇用の歪みを増幅強化することに